２　地理歴史・公民

学校番号	１０８

平成 31 年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	3
使用教科書	「倫理」　（東京書籍）						
副教材等	「テオーリア　最新倫理資料集」（第一学習者）						

１　学習の到達目標

１．自分の生き方・あり方を模索し、より深く多面的に考えることができるようになる。
２．多様な文化や考え方を学び、民族をこえて様々な立場の人々を理解し共感できるようになる。
３．社会のあるべき姿を模索し、現代社会の諸問題に対して、自分としての意見を持つことができるようになる。
４．自分の考えを文章にまとめたり、発表したりすることが容易にできるようになる。

２　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１．現代社会の諸問題に関心を持ち、新聞やＴＶのニュース番組をできるだけ視聴する。
２．授業時に学ぶ様々な思想について、自分の言葉で友人に説明したり、それに対する考えを話しあったり、文章にまとめてみたりする。
３．習っている単元の資料集に目を通し、興味のある部分についてはネットなどを活用して、さらに詳しく調べたり、関連する書籍を読んでみる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め，人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つとともに，これらに関わる諸課題を探究する態度を身につけ，人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし，人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに，良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断し，その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，有用な情報を主体的に選択して，これらを自己形成に資するように活用し，学び方を身につける。	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などにかかわる基本的な事柄を,生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し,人格の形成に生かす知識として身につけている。
評価方法	・授業態度 ・発問評価 ・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ記入内容	・定期考査 ・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ記入内容	・提出課題	・定期考査 ・小テスト ・発問評価

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期末に 100 点の評点にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	青年期の課題と自己形成	①青年期の意義 ②青年期の課題 １－青年期とは何か ２－青年期の思考と感情 ３－青年期の人間関係 ４－青年期の自己形成	○ ○	○ ○		○ ○	・青年期はどのような位置にあり，どのような発達課題があるのかを考える。（a,b,d） ・青年期の心身の特徴を把握するとともに，青年期の悩みの心理的特徴に気づく。（a,b,d） ・人間の特質とは何かを理解する。（b,d）	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小ﾃｽﾄ ・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ提出 ・定期考査
	人間としての自覚	①ギリシャの思想 １－哲学の形成 ２－ソクラテス ３－プラトン ４－アリストテレス ５－ギリシャ思想の展開	○	○		○	・ギリシャの思想家のものの見方・考え方を理解することにより，古代ギリシャの思想は，私たちにとってどのような意味を持つのかを考える。（a,b,d）	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小ﾃｽﾄ ・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ提出 ・定期考査
		②キリスト教 １－ユダヤ教の世界 ２－イエス ３－キリスト教の発展 ③イスラーム	○ ○	○ ○		○ ○	・世界で起こっている宗教を原因とする争いを調べ，宗教とは何かについて意欲的に考察する。(a,b,d) ・イスラームはどのようにして誕生したか，ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか，ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解する。(a,b,d)	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小ﾃｽﾄ ・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ提出 ・定期考査
2学期	人間としての自覚	④仏教 １－インドの思想文化 ２－ゴータマの教説 ３－仏教思想の展開	○	○		○	・インドの人々はどのような死生観を持っているかを理解する。（a,b,d） ・ゴータマの教えは，深い思索を続ける生き方そのものであることを理解する。(a,b,d)	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小ﾃｽﾄ ・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ提出 ・定期考査

		⑤中国の思想 １－中国の思想文化 ２－儒家の思想 ３－道家の思想	○	○	○	○	・陰陽五行や風水など，身近なものにも中国の思想との関わりがあることを知り，中国の思想に対する興味・関心を高める。（a） ・中国の思想は，歴史的に日本に最も大きな影響を与えたものであることを知り，私たちの現在や未来にどのよう関わっているのかを考察する。（b,c,d） ・『論語』の中の孔子の言葉」から，中国の思想の根本を読み取る。（a,b,d） ・中国の人々の自然観・人生観を理解する。（b,d）	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小ﾃｽﾄ ・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ提出 ・定期考査
	国際社会に生きる日本人としての自覚	①日本の風土と伝統		○		○	・日本人の精神的特性が，日本の風土とどのように関連しているのかを考える。(b,d)	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小ﾃｽﾄ ・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ提出 ・定期考査

2学期学期	現代に生きる人間の倫理現代に生きる人間の倫理	①人間の尊厳 １－ルネサンスと宗教改革 ２－人間性の探究	○	○	○	○	・人間の尊厳に関わる思想家の思索を通して，西洋の近代人は，人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを考える。(a,b,d) ・現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考える。(b) ・先哲の思想の中から人間の尊厳に関わる資料を収集し，活用する。(c)	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小ﾃｽﾄ ・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ提出 ・定期考査
		②近代の科学革命と自然観 １－近代の科学革命 ２－経験論と合理論 ３－近代科学と社会の進歩	○	○		○	・ベーコンやデカルトによる科学的な考え方の特色を理解し，科学技術の発達と自然との共生についての興味・関心を高める。(a,b,d) ・ベーコンやデカルトの著作の一部を読み，自然は人間の手によって操作できるとする新しい自然観をつかむ。（b,d） ・近代の科学はどのような背景から生まれてきたのかを理解する。（b,d） ・経験論と合理論の考え方の特色はどこかを理解する。（b）	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小ﾃｽﾄ ・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ提出 ・定期考査

		③自由で平等な社会の実現 １－社会契約の思想 ２－人格の尊厳と自由 ――カント ３－人倫と自由の実現 ――ヘーゲル ４－功利主義の思想		○	○	○	・近代ヨーロッパの社会契約説を通して，民主社会の成り立ちを理解し，民主社会を実現した社会契約の思想について，多面的・多角的に考察する。(b,d) ・西洋近代の思想家たちは，自由の実現についてどのように考えたのか，多角的・多面的に考察する。（b,d） ・ホッブズ，ロック，ルソーに関する資料を収集し，社会契約の思想の違いを整理する。（b,c） ・現在の政治的自由は，ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解する。（b,d） ・カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解する。（b） ・ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解する。（b）	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小ﾃｽﾄ ・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ提出 ・定期考査
２学期	現代に生きる人間の倫理	④人間性の回復と主体性の確立 １－社会主義の思想 ２－実存主義の思想 ３－プラグマティズムの思想		○	○	○	・社会主義の生まれた背景とその発展過程，現代の社会主義について考察する。（b,d） ・主体的なあり方は，努力を伴う生き方であることを，実存主義の思想から考察する。(b,d) ・略伝や図版を活用して，思想家の人生をたどりながら思想内容を理解する。(c)	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小ﾃｽﾄ ・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ提出 ・定期考査

3学期	現代の諸課題と倫理	①生命の問題と倫理課題 １－生殖医療と遺伝子操作 ２－脳死臓器移植と再生医療 ３－自己決定の尊重と末期医療 ②環境の問題と倫理課題 １－有限な地球環境 ２－生物多様性と自然との共生 ３－予防原則と世代間倫理	○ ○	○ ○	○ ○		・クローン技術，遺伝子組換え，脳死臓器移植，安楽死と尊厳死，医療における自己決定権などのテーマから，探究したい課題を見いだし，多面的・多角的に考察する。(a,b,c) ・地球環境問題，環境保護活動，循環型社会をめざす取り組み，将来の世代に対する責任などのテーマから，探究したい課題を見いだし，多面的・多角的に考察するとともに，広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。（a,b） ・地球規模だけでなく，身近なところで起こっている環境問題について調べ，有限な資源を未来の世代にも配分するには何をすればよいか，環境倫理の考え方はどのようなものか，などについて考察する。(a,c)	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ提出

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　d:知識・理解

※　年間指導計画作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。